

⑨ 高土区

凡例

- 市役所
- 出張所・総合事務所
- 居住誘導区域
- 地域自治区

人口分布 250mメッシュ
P2年 総人口密度
40人/ha以上

洪水浸水想定区域
50m以上
30m以上～50m未満
0.5m以上～30m未満
0.5m未満

家屋倒壊等氾濫想定区域
河岸侵食
氾濫流

津波災害警戒区域
内水被害警戒箇所
土砂災害警戒区域
土砂災害特別警戒区域
ため池浸水想定区域
なだれ危険箇所
垂直避難困難
垂直避難可能
要配慮者施設
水害緊急避難場所
土砂災害緊急避難場所
津波緊急避難場所

図中番号凡例

- ①-1 洪水災害(計画規模)
- ①-2 洪水災害(想定最大規模)
- ①-3 多段階浸水被害(降雨確率)
- ② 土砂災害
- ③ 津波災害
- ④ 内水災害
- ⑤ ため池災害
- ⑥ なだれ災害

誘導区域内

誘導区域外

※災害ハザードのうち「①-3 多段階浸水被害」は図示していません。

一定の災害リスクは存在するが、人口密度が低いエリア

表 災害リスクの整理 (⑨高土区)

災害ハザード	災害リスク	含まれる 誘導区域(*)			
		居	都	重	外
①ー1 洪水災害 (計画規模)	ほぼ災害リスクは存在しない。 ※櫛池川沿いの一部においては浸水深 0.5m以上～3.0m 未満の浸水想定区域も見られるが、居住エリアにおける 洪水災害のおそれはほとんどない。	—	—	—	—
①ー2 洪水災害 (想定最大規模)	櫛池川沿いの一部エリアにおいて、浸水深が 0.5m以上～ 3.0m未満に該当するエリアで、かつ高齢者人口割合が高い エリアがあり災害リスクが存在する。	—	—	—	●
①ー3 多段階 浸水被害 (降雨確率)	国が管理する関川水系（関川及び保倉川）からの氾濫を想 定した災害リスクは存在しない。	—	—	—	—
② 土砂災害	区東部の山際において土砂災害警戒区域が指定され、かつ 高齢者人口割合が高いエリアとの重複が見られ災害リスク が存在する。	—	—	—	●
③ 津波災害	災害リスクは存在しない。	—	—	—	—
④ 内水災害	災害リスクは存在しない。	—	—	—	—
⑤ ため池災害	災害リスクは存在しない。	—	—	—	—
⑥ なだれ災害	災害リスクは存在しない。	—	—	—	—

(*) 居:居住誘導区域、都:都市機能誘導区域、重:誘導重点区域、外:誘導区域外、—:該当なし

【居住誘導区域内の災害リスクについて】

居住誘導区域の指定なし